

平成28年度 第2回大井町総合教育会議 会議録

招 集 年 月 日	平成29年2月16日(木)
招 集 場 所	大井町役場 3階 301・302会議室
開 会 日 時	平成29年2月16日 13時20分
閉 会 日 時	平成29年2月16日 14時40分
出席した構成員	大井町長 間宮恒行 大井町教育委員会 教育委員長 石井孝典 委員長職務代理者 牧野誠一郎 教育委員 中條政夫 教育委員 小島茂子 教育長 夏苺一壽
欠席した構成員	
事 務 局	総務安全課長 露木 均 総務安全課主査 北村 竜也
説明のため出席した者	教育総務課長 石井 浩二 学校給食センター所長 橋本多恵子 生涯学習課長 橋本 嘉之 子育て健康課長 橋本 仁 教育総務課副課長 諸星 哲央 教育総務課指導主事 秦 睦美 生涯学習課社会教育主事 遠藤 友樹
会議に付した協議調整事項等	○いじめ問題への対応について ○幼児教育の現状について ○その他
会議の経過	別紙のとおり
傍 聴 人	6人

会議の経過

露木課長	<p>1 開会</p> <p>皆様、こんにちは。定刻前ではございますが、皆様ご出席でございますので、只今から平成28年度第2回大井町総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めさせていただきます総務安全課長の露木でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは開催にあたりまして、本会議は会議録作成のため録音をさせていただきますのでご承知お願ひいたします。</p> <p>それでは早速、次第に沿いまして進めさせていただきます。</p> <p>次第2 町長あいさつ よろしくお願ひいたします。</p>
間宮町長	<p>2 町長あいさつ</p> <p>あらためまして、皆様、こんにちは。大分、春めいてきたわけでございますが、朝晩の冷え込みは依然として厳しいものでございます。花の便りもあちらこちらから聞かれる今日でございます。委員の皆様におかれましても、お忙しい中を第2回大井町総合教育会議にご出席いただいたことを心からお礼申し上げます。日頃、教育委員として様々な活動の中でご協力をいただいておりますことをこの場を借りまして併せてお礼を申し上げます。あとひと月もしますと各学校の卒業式も始まり委員の皆様もお忙しくなろうかと思っておりますが、今後とも大井町の教育のために、お力添えをお願いいたします。</p> <p>本日の内容につきましては、いじめ問題への対応と併せて大井町の幼児教育の現状と案件を上げさせていただきました。皆様からはその他の案件がございましたら、お諮りするところですのでよろしくお願ひします。また、忌憚のないご意見をお願ひします。</p>
露木課長	<p>ありがとうございます。ここで本日の出席者でございますが、配付させていただいております総合教育会議構成員名簿のとおりでございます。なお、昨年10月付けの教育委員の異動に伴いまして、小島茂子委員が今回からの構成員となっております。また、今回につきましても、協議・調整事項の説明等のため、教育委員会事務局より秦指導主事及び遠藤社会教育主事が出席しております。</p> <p>それでは、次第3協議・調整事項に移ります。大井町総合教育会議運営要綱第2条第1項の規定によりまして、議長は町長となりますので、進行を間宮町長よろしくお願ひします。</p>
間宮町長	<p>それでは、私が議長として進行させていただきます。会議の性質上、私からも意見を述べさせていただくこともあろうかと思っておりますので、予めお許しをいただきたいと思ひます。</p>

	<p>それでは、(1)「いじめ問題への対応について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>秦指導主事</p>	<p>(1) いじめ問題への対応について (※パワーポイントでいじめ問題への対応について説明をした。)</p>
<p>間宮町長</p>	<p>只今、いじめに関する問題や対応等について、パワーポイントにより説明がありました。いじめによるところの自殺も後を絶たない状況にあり、また今日お示しさせていただいたように福島第一原子力発電所の事故による被災児童生徒がいじめを受けた問題など、大きな問題になっております。そんな中でこの度、神奈川県教育委員会と市町村教育委員会教育長とで、いじめ防止対策を推進するための申合せ事項を結んだと聞いております。今後、教育委員会としてどのように取り扱っていくのか、また具体的な取り組みや考え等があれば、お示しいただきたいと思っております。</p>
<p>夏苺教育長</p>	<p>私から今の内容につきましてお話しさせていただきます。教育委員の皆様には、この後の定例会でご報告すべきことですが、前回の臨時会でこういう方向で申合せ事項が結ばれるとご説明申しあげましたが、先般9日に確認できたところがございます。その通知が教育委員会に送付されまして、早速、各学校に通知しました。先程、パワーポイントでお示しした申合せ事項の5点でございます。今後につきましては近々、学校長と集まりまして、この内容を確認し教育委員会や各学校での取り組みにつきまして、話し合いをしていきたいと思っております。しかしながら、5点のそれぞれにつきましては、すでに各学校で実施している内容でございます。いじめ防止対策推進法の基本方針を基に取り組んでいる状況がございますので、改めて確認をするという対応になります。また、5点目の福島の原子力発電所の被災児童生徒に関わる内容につきましては、実際のところ大井町では、被災で避難して来たご家族がいないこともあり、子ども達自身また学校にとってもそれほど直接的な内容と捉えていないところもあろうかと思っておりますので、指導を活かすためにも原発での被災を風化させないためにも内容につきまして、もう一度確認をしなければならないと思っております。いずれにいたしましても、特にいじめによる自殺の問題は今大きな問題となっておりますし、実際この事案につきましては県内においても起きておりますので、決して他人事ではない問題として受け止めております。自殺に至ってしまったいじめのケースは、教職員自身がいじめに気づかなかつた、気づいても学校全体として対応しなかつた例も多かつたと認識しております。引き続きいじめ防止対策推進法に基づいた基本方針につきまして、体系的、計画的な取り組みを推進していき</p>

間宮町長	たいと考えております。
石井委員長	<p>教育委員の皆様からご意見はございますでしょうか。</p> <p>私が思いますのは、いじめの現状で大井町では、全国や神奈川県と比べて、いじめはどんな理由があってもいけないことだという認識を小中学生が持っているというデータが出ていますが、大井町はいじめの件数が少ないからといって全く問題がないと高を括るのは良くないと思います。やはり先生方も疑いの目というのもおかしいですが、常々危機意識を持って取り組んでいただきたいと思います。いじめをする当事者同士ではなく、その周りで囃し立てたり、傍観することもいじめだと認識して根絶していただきたい。また家庭においても、自分の子どもの様子がおかしいであるとか、常々親は子どもの様子を見て精神的な支えになっていただくとともに、子どもから信頼される親であるべきだと思います。</p>
中條委員	<p>いじめの問題が凄く深刻なのは、命に関わる問題に直結するからだと考えています。先程の秦指導主事からの報告の中で、大井町でも小さな事案はあると。ついつい教師の立場からすると、これくらいは例えば冷やかしかであるとか、からかいであるとか、学校では様々な個性のある子が集団生活をしていますから、当然トラブルはあると思います。その中でもちょっとした冷やかしかからかい、これは受けた側が苦痛と考えたらいじめに該当すると思います。ですから、小さな事案であるからといって、見逃さない学校の風土づくり、いじめを許さない風土づくりを徹底していく必要があるということと、教師はプライドがあると思います。自分のクラスの中で、いじめの事案があった時に、なかなか相談しづらいのではないかと思います。それをオープンにして、チームとして学校が対応するような仕組みづくりが、命に直結するので最優先課題として学校が取り組んでいく必要があると感じています。</p>
間宮町長	<p>確かに、いじめの問題が大きくなることは、学校現場の教師の受け止め方と対応と、教育委員会においても受け止め方によって、事が重大化しているケースが多いですね。</p>
小島委員	<p>いじめの問題の基本的な認識として、時代を経るごとにいじめの定義が変わっていると話がありました。いじめについては、どの子にもどの学校においても起こり得るということを十分に認識することが必要であると思います。子どもによっては、今いじめられていることを表現できる子どもと、逆にいじめられているのにそれを誰にも発信す</p>

<p>牧野委員</p>	<p>ることができない子どもがいます。自分から発信できない子どもについて、教師が日頃、児童生徒との信頼関係をしっかり構築して、どんなことでも相談できる、話ができる関係づくりが大切だと思います。それを見た子ども達も教師に報告できることも必要だと思います。家庭においても、子どもと一緒に過ごせる時間を大切にして、子どもの様子がいつもと違うと気づける、また学校と家庭と地域との連携を密にすることも大切だと思います。もう一点、周りの人にやってもらおうのではなく、児童生徒たちが主体的に動いていける環境づくりも必要だと感じます。</p> <p>児童生徒指導会議は、先生方でやられているかわかりませんが、今、学校ではホームルームはあるのでしょうか。その中で、児童生徒同士の話し合いはできているのでしょうか。</p>
<p>夏苺教育長</p>	<p>まず、児童生徒指導会議は、幼児児童生徒の担当者が集まった会議であります。年間何回か実施しており、少なくとも1回はいじめ問題を取り扱っています。そこでは、各学校で定めているいじめ防止基本方針の状況を共有し課題等を持ち帰り、さらに各園、学校で取り組むものとなっております。当然、方針の中で各学校での取り組みがあり、そこにはホームルーム等の位置づけも計画されています。</p> <p>先程、関係づくりの話がございましたが、各学校では年間2～3回いじめに関するもう少し相対的な児童生徒指導上のアンケートを実施する中で、いじめを認知している実態がございました。全国的には、いじめの認知の約半数がアンケートによるものであります。その内容につきましては、各学校で全国的に取り組んでいると思います。それ以外にも、日常的な声掛けであるとか観察や定期的な面接の中で子どもを見ていきます。子どもの少しの変化に気づく鋭敏な感覚を持って対応していかなければならないと思っております。先程、中條委員からご指摘いただきましたが、子どもの訴えを受け止められる態勢づくりについてでございます。すでにできておりますが、それが十分に機能しているかどうか毎回確認をしているところでございます。なお、保護者への周知や取り組み、例えば今年、大井小学校のPTAの広報などでいじめの問題を取り上げて、保護者への発信をしております。また、児童生徒が主体的にと話がありましたが、児童会や生徒会の活動を通しての取り組みもでございます。湘光中学校では、自分たちでルールづくりをして取り組んでおり、いじめ問題への理解と見逃さない体制づくりができておりますが、それを更に機能的に推進していく取り組みを常に確認していかなければならないと思っております。</p> <p>教師の気づき学校の気づきが、家庭でいえば保護者がいて家族がい</p>
<p>間宮町長</p>	<p>教師の気づき学校の気づきが、家庭でいえば保護者がいて家族がい</p>

	<p>てどうやって気づくか。日頃の遊びや勉強を通じてどう変化があつてそれを周りの児童生徒がどうやって気づくか。気づいたことをどうやって伝えるか。この伝える方法が容易なようで、先程、小島委員が話しておりましたが、伝達するって難しいと思います。受け入れ態勢があつても先生に伝えることが告げ口をするような捉え方になってしまうとどうかと。組織や態勢が整つても、本人の勇気や周りが背中を押してあげるなど、難しいと思います。それを教師が気づかなかつたことに責任が転換されていることもあるだろうし、いじめのない学校風土が構築されるかどうか、我々が論理的に考えることと、子どもの心理の中で考えることとギャップがある。そのギャップを埋めていく必要があると思います。これは、優しいようで難しいと思う。</p>
夏苺教育長	<p>いじめ問題が発生したときに、学校等が対象になりますが、保護者、家庭が大事な意味合いを持っています。文部科学省もいじめ問題は、家庭が重要な役割を担っているとし、家庭教育の在り方が示されており、ですから、学校だけの問題ではなく、家庭や保護者がどう関わっていくか、また学校とどう関わっていくか関係づくりを大事にしていかなければならないと思っております。大井町の場合は、PTAと教育委員会との懇談会を設けており、ケイタイ・スマホの利用について今年度話し合いました。前回の会議でもこの内容を話題にさせていただきましたが、原発事故の被災者の問題が大きくなっており、今回取り上げました。改めて家庭教育の在り方を大事にしていかなければならないと思っております。</p>
石井委員長	<p>先程から、子ども中心の話になっておりますが、先生の指導の在り方につきまして道徳教育を啓発していく必要があると思います。11月に大井小学校の研究発表を拝見させていただきました。普段、道徳の授業を拝見する機会はありませんが、ほとんどのクラスで道徳教育を徹底してやっているのを見て、学校現場では子どもへの指導はもとより、先生方への啓発が進んでいると感じました。</p>
間宮町長	<p>そうなると、いじめ防止対策推進法ができて、町もそれを受けていじめ防止基本方針を作つて対応していく中で機能的になりつつある。その点においては難しさはあるけど、機能していると受け取つていいですよ。</p>
夏苺教育長	<p>石井委員長が話された道徳教育ですが、いじめは起こり得る中で小さな内に対応しますが、その前にいじめをなくすための土壌づくりをしていかなければならない。それが、道徳教育につながるところだと思います。大井町では、学力推進事業で教科と道徳教育を推進してお</p>

<p>間宮町長</p>	<p>りまして、すでに9年目になります。特に分かりやすい授業が子ども達の日頃の生活の満足感につながっていくと思っていますし、また道徳教育の心の醸成ということでは十分使命を持っていると思っています。思いやりの心や規範意識、生命尊重を一つの項目として位置付けて取り組むように話していますし、公開授業等においても道徳の授業を公開し、保護者や地域の方を交えて推進していくよう各学校にお願いしている状況でございます。</p> <p>日本人は、判官びいきというものを持っていて、弱い者に加勢することも持っていて独特の特徴があります。それが、良い方向に出れば正義につながるが、正義は誰かがいじめられているときに助けることになります。欧米では、言葉で自己主張し相手に勝つか負けるか、ゲーム的にも身に着けなければならない社会になりつつあります。アメリカで生活をしてきた人によれば、職場に行っても毎日喧嘩のように自己主張し合っている。その自己主張に勝てなければ、ビジネスは成功できないと聞きました。いい意味でのグローバル化を子ども達にしっかり教えていかなければならない。グローバル化の中でも日本人の優しい心を持たせることが道徳教育の中にあるのではないか。こういうところを大切にしていきたいと思います。</p> <p>論理的に考えてできることと、子どもの立場になったときにどうなのかと、これを絶えず子どもの立場から仕組みづくりができればと思います。この問題につきましては今回だけではなく、絶えずINGで進めていかなければならない問題かと思しますので、お気づきの点がございましたら教育委員会を通じて、ご意見等をお寄せいただければとお願いするところでございます。</p> <p>皆様から他にございませんでしょうか。それでは次に進みます。</p> <p>(2)「幼児教育の現状について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>秦指導主事</p>	<p>(2) 幼児教育の現状について (※パワーポイントで幼児教育の現状について説明をした。)</p>
<p>間宮町長</p>	<p>幼児教育の現状について説明がありましたが、委員の皆様からご意見をお願いいたします。</p>
<p>石井委員長</p>	<p>大井町では、生後3か月や幼稚園小学校までの間に、預かり保育や子育て支援センター、ファミリーサポートセンター等が子育てを支援することができますが、各町の年度予算を見るとネウボラという初めて聞くような言葉がありました。これを調べると、妊娠期から支援をする制度のようですが、大井町では行っているのでしょうか。現状では、生後のサポートはしていると思いますが、生まれる前のサポート</p>

<p>橋本仁課長</p>	<p>はでしょうか。</p> <p>現在、大井町では子育て健康課において、まず母子手帳の発行から行っております。そこで妊婦の状況を確認や指導をし、その後、生まれてから新生児訪問等を行い、ここでは母乳の出方や子どもの育て方を指導しております。生まれる前の指導は、ネウボラの活動として求められていますが、これに関してはすでにある程度実施しております。保健師を地区担当ごとに配置し、生まれてからは助産師と一緒に訪問し指導を行っております。乳幼児からのその後のつながりにつきましても、保健師が面接をしておりますので、地域での一貫した子育てができている状況です。</p>
<p>間宮町長</p>	<p>ネウボラは北欧からのもので、出産前から出産後までのケアをするもので、1年位前にも質問を頂戴したと思います。この事業に関して大井町は、ネウボラの名称は使いませんでした。事業自体は早くから取り組んでいたと聞いております。</p>
<p>牧野委員</p>	<p>現状とは少し違うかもしれませんが、今後、少子化ということが言われていまして、今、町内には幼稚園が3園ありますが、園児はだんだん減ってくるのだと思います。統廃合であるとか今後どうなっていくのか、また町としてどう考えているのかをお聞きしたい。</p>
<p>間宮町長</p>	<p>園児数は、減ってきているのが現状であります。しかしながら、3歳児から入園をしております。今、施設的には相和幼稚園にはある程度の許容がありますが、クラス編成からすると大井幼稚園も大井第2幼稚園も園児数が少なくて運営に支障を来たすことはない状況にあります。今後、園児数が減った場合、幼児教育のセンター的な役割を担うため、父母の会の方々に来ていただいて幼稚園を使い、自分自身のための研修等や保護者間の連携づくりに使えばいいと思います。園児数が減っていくことは事実でしょうけど、当分の間、幼稚園の統廃合は現状では考えていません。</p>
<p>夏苺教育長</p>	<p>確かに園児数は減ってきていまして、就園率等の確認をしながら対応を図っていますが、町内の幼稚園対象者全員が、通園しているかというところではないというのが事実でございます。少しでも幼稚園の魅力発信していかなければならないことが、課題だと思っております。幼稚園の運営が魅力あるものしていかなければならないと思っておりますし、冒頭にありました3つの要素が大井町の幼稚園には備わっております。実際に大学の先生を交えて公開保育を行っておりますが、来られる先生方には、非常に素晴らしい環境の中で、文部科学省が推</p>

	<p>進している内容の園教育がなされていると、いつもお褒めの言葉をいただいているのが実態でございます。しかしながら、魅力あるものを地域に発信できているかというところがあると思っております。これが一つの課題として捉えております。併せて園長先生や教頭先生と教育委員会とは、定期的に運営について話し合いをしております。特に子ども達を取り巻く状況や環境が変化してきている中で、それにどう対応していかなければならないのか見直す必要があると、検討課題として対応していく考えでございます。行事等でも例えば餅つき大会は、今までと内容を変えて行っております。というのも、食に関するもので、すでに廃止しているものもございますが、食物を口に入れるという今まで当たり前に行っていたことが、環境的なことやウイルス性胃腸炎のリスクがあることから、神経を使って対処していかなければならないことになっております。今後、行事全般を含めて検討していかなければならない課題と捉えております。</p>
中條委員	<p>何回か町内の幼稚園を参観させていただいたり園便り等を読ませていただくと、各園が様々な活動や体験活動をして、先生方がきめ細かく子ども達に寄り添った支援をしていると。また地域へも積極的に幼稚園が関わっている様子を拝見させていただいて、素晴らしいと思っております。その反面、小学校の低学年の子ども達を見たときに、授業に集中できないとか、先生の話が聞けないとか、他人と関わるのが苦手とか、規範意識が乏しいといった子ども達も見受けられることもあり、そういう状況があることを考えたときに、幼稚園と小学校をどうつなげていけばいいのか。先程の説明の中でも小学校との交流会があることを教えていただきましたが、先生方の研修等も含めてもっと幼稚園と小学校を上手くつなげていく仕組みをこれから考えていく必要があると感じています。</p>
間宮町長	<p>幼稚園と学校の連携は、校長園長会等を通じた中で意見交換をし、努力はしているがなかなか難しいと感じています。</p>
中條委員	<p>もちろん家庭の協力を得なければ非常に難しいと思います。</p>
間宮町長	<p>保育園と幼稚園の教育は、それぞれ進化をしています。保育園は早朝や延長保育のため非常勤の保育士も多い中で、職員間の意思の疎通を図る機会が保育園はなかなか取れないのが現状です。幼稚園は夏休み等の長期休暇がありますから、研修等を受ける時間が取れますが、保育園はそのような機会が取れません。過去に人員を増員して対応してみましたが、一人や二人の増員では研修の時間をつくることはできませんでした。現状としては、園児数は減っていきませんが、保育園の</p>

	<p>入園者が減ってくるとは考えにくいので、幼稚園にしても保育園にしても質の確保をどうしていくかが課題になります。早朝や延長保育は、年々、教師自体も落ち着いた対応が過去のようにできていないと言えるのではないのでしょうか。そのようなことが、現場の保育士にしても幼稚園教諭にしても苦労があるのではと思います。落ち着いて子どもと接することができる、また保護者と接する時間をどう取るか、町としても考えていかなければならない課題だと感じております。保育園にしても幼稚園にしても一日の慌ただしい中で園児に接していく状況で、今後、園児が落ち着いた日常生活の行動ができるかというのは、考えていかなければならないと思います。過去のように、早朝や延長保育をやらずに済む時代ではないことは事実ですし、国や県の支援等も保育士や教諭の待遇をと言われていますが、そこまでの国等の助成や補助はいただけない状況でやっていく。また子ども子育て支援法から幼稚園の保育料まで国が介入してくる現状があります。これらが大きな課題であります。しかしながら、内容が充実した質の高いものを提供していかなければならないことは我々も認識しておりますし、努力もさせていただいております。いろいろなご意見をお寄せいただいて、解決をしていく認識は持っております。</p>
小島委員	<p>幼稚園の3年間は、素晴らしいと思って見させていただきました。そのためには、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をはっきりさせて、それを遊びや体験をとおして育てていくところにあるのかと思います。また先程、話題になっておりました道徳教育の大切さや生命尊重の気持ちの中で培われると思います。地域の人との関わりでの伝承遊びや日本の伝統文化等に触れる場所も設定され、恵まれた自然環境の中で過ごせるのは、大井町ならではの事だと思っております。日本の文化だけではなく、クリスマスやハロウィン等の外国の文化を知ることにも必要だと思っておりますが、それらの行事に流されているのではと危惧をしています。今までのように、日本の伝統的なものも大切にしていけたらと思っております。</p>
夏苺教育長	<p>昨日、新聞で次期学習指導要領のことが話題になっていたかと思っております。併せて教育要領も変わりまして、そこには日本の伝統文化が明記されました。文部科学省の担当者も、例えばわらべ歌や遊び的なものなどを指摘しており、大井町であれば凧揚げや駒回し地域の方と関わって取り組んでおります。</p>
間宮町長	<p>これらは大事な事だと思っておりますし、世界から見たときに国際化だとか、日本人が持っているアイデンティティーだとか、日本の文化をどれだけ日本人が知っているかというのは、外国人から見ても試され</p>

るところだと思います。今の日本は、生まれたときはお宮さんで、結婚式はキリスト教会で、亡くなったらお寺さんでというような笑話的に言えばそういうことで、それぞれの生活の中でそれぞれの選択をすることは重要だと思いますが、日本の文化を忘れてはならない。これは非常に大事だと思います。そういう点では、地域の活動や地域の支援者の力をお借りしてできるのではないかと思います。餅つきは保健所の関係もありますが、風物詩を味わい楽しみながら感性を磨く教育が必要だと私自身また皆さんそのような思いだと思います。

幼児教育も進化をしております。それにいかに対応できるかが大きな課題になっていると思います。この問題につきましても、教育委員会にご意見を出していただければと思います。

皆様から他にございませんでしょうか。

次に協議・検討事項の（３）その他でございますが、何かご意見等ございましたらお願いします。

ご意見も尽きたようでございますので、第２回総合教育会議を閉じさせていただきます。次回の開催につきましては、皆様のご都合と町の動向等考えながら調整したいと思います。今日は、様々なご意見をいただきましたので、それを活かした中で運営していくと考えておりますが、特にいじめの問題に関しましては、神経質になるくらい我々が研ぎ澄ましていかなければならないと思っておりますし、受け止め方によっては、大きな悲劇を生むようなこととなりますので、我々も心していきたいと思っております。また子ども達が発信をしやすくなるような環境づくりが一番大事だと思います。今後のご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。ありがとうございました。

4 閉会

露木課長

熱心なご協議ありがとうございました。

これもちまして、平成２８年度第２回大井町総合教育会議を閉会させていただきます。長時間にわたりお疲れ様でした。

閉会時刻 １４時４０分